

よりよい人間関係を築く力を育む話し合い活動の工夫 ～公平に判断し折り合いを付ける集団決定を目指して～



那覇市立松川小学校教諭
勝連 慈士

目次

I	テーマ設定の理由	61
II	研究目標	61
III	研究仮説	62
1	基本仮説	
2	作業仮説	
IV	研究構想図	62
V	研究の内容	62
1	よりよい人間関係を築く力を育むために	
(1)	よりよい人間関係を築く力とは	
(2)	よりよい人間関係を築く力と話し合い活動	
2	他者の意見を受容的に聞くために	
(1)	他者の意見を受容的に聞くとは	
(2)	他者の意見を受容的に聞くための具体的な手立て	
①	聞き方の視点	
②	聞き合う学習	
3	公平に判断し折り合いを付けるために	
(1)	公平に判断し折り合いを付けるとは	
(2)	公平に判断し折り合いを付けるための具体的な手立て	
VI	授業実践（第4学年）	66
1	議題名	
2	目標	
3	議題選定の理由	
4	本時までの取り組み	
5	本時の展開	
VII	結果と考察	68
1	作業仮説1の検証	
2	作業仮説2の検証	
3	事後の活動	
VIII	研究の成果と課題	72
1	成果	
2	課題	
	《主な参考文献》	

よりよい人間関係を築く力を育む話し合い活動の工夫 ～公平に判断し折り合いを付ける集団決定を目指して～

那覇市立松川小学校教諭 勝連 慈士

I テーマ設定の理由

近年、核家族化、少子高齢化などの社会状況を背景に、子ども達は多様な人間関係の中で触れ合う経験が減少している。結果、好ましい人間関係を築けず、社会性の育成が不十分である状況が見られる。そのような課題を踏まえ、中央教育審議会答申（平成20年1月）では、学習指導要領の改善の基本方針に「よりよい人間関係を築く力」の育成を示した。

そのことから、新学習指導要領における特別活動の全体目標や各内容の目標の中に「人間関係」という言葉が示され、児童の人間関係の問題を、「望ましい集団活動」を方法原理としている特別活動で対応していくことが明確になったと考えられる。したがって、特別活動の基盤となる教育活動である学級活動において、望ましい集団活動を通してルールを守りながら協力しようとすることで社会性の基礎を育て、「自分はクラスの大切な一員である」という所属感を感じさせ、互いのよさを認めて協力しようとする「よりよい人間関係」を築こうとする児童の育成を図る展開が必要である。

しかし、学級では、「自分の意見や考えは積極的に表現できるが、周りとの協調性が欠けている子」「友達の立場に立って考えることはできるが、自分の意見を表現できない子」など、社会性の未熟さを感じる児童が見られる。よって、わがままな言動がぶつかったり、一部の児童だけが意欲的に活動するなど、望ましい集団活動が展開できていない。

これまでの話し合い活動を振り返ると、話し合いの場では、自分の考えを通すことだけを考えるあまり、他者の考えに対して反対意見を述べ合い、意見が対立したまま、数的に優位な意見に集団決定することがあった。また、実践の場では、「好きな子とだけ一緒に活動したがる子」や「進んでかかわることができない子」などが見られ、集団としてのまとまりに欠け、学級集団内に対立や離反などの問題が生じたこともあった。そのため、決まったことに対して協力し合って実践することができず、児童一人一人によりよい人間関係を築く力が育まれているとは言えない。

児童一人一人によりよい人間関係を築く力を育むためには、他者の考えを受け止め、他者の立場に立って自分の意見を見つめ直しながら話し合い、全体の立場に立って折り合いを付けて集団決定したことを基に、協力して実践していく必要があると考える。

そこで本研究では、話し合いにおいて、他者の意見を受容的に聞き、自分の意見を修正し、公平に判断し折り合いを付ける集団決定を目指した支援を意図的・計画的に行うことで、よりよい人間関係を築く力を育むことができるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

よりよい人間関係を築く力を育むために、公平に判断し折り合いを付ける話し合い活動の在り方を実践的に研究する。

Ⅲ 研究仮説

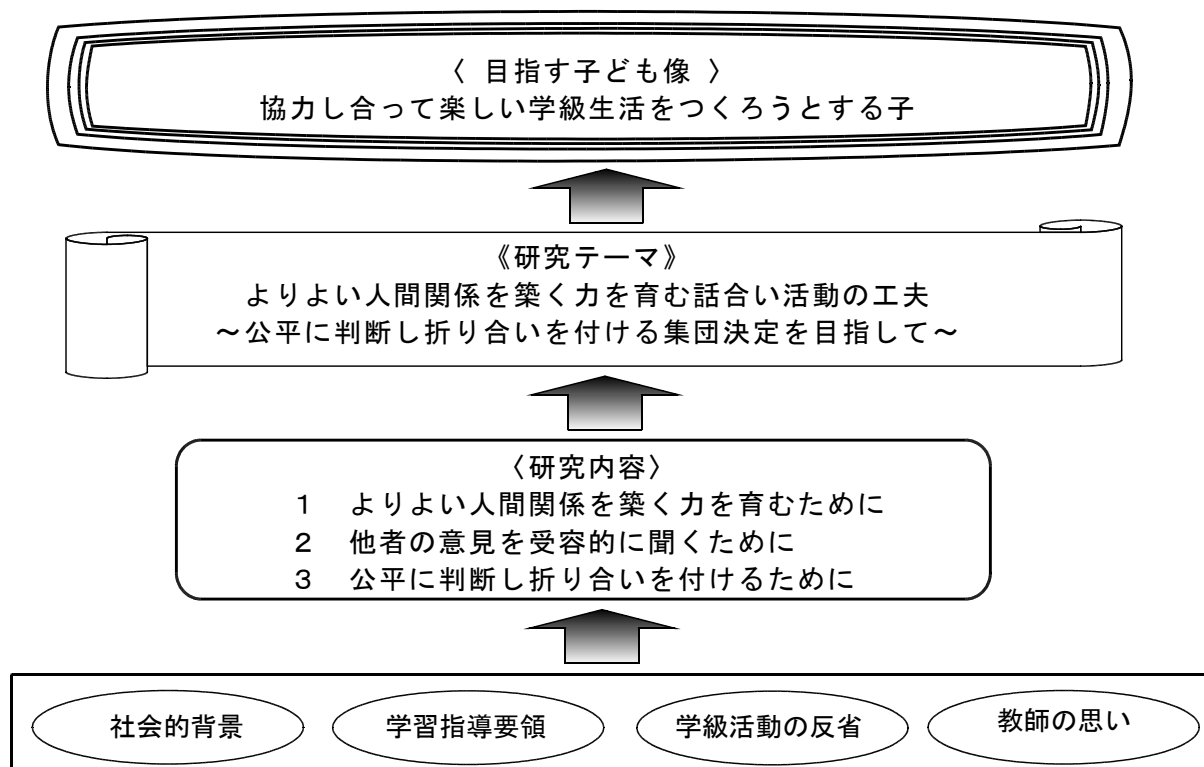
1 基本仮説

話し合いにおいて他者の意見を受容的に聞き、自分の意見を修正し、公平に判断しながら折り合いを付ける集団決定ができれば、よりよい人間関係を築く力を育むことができるであろう。

2 作業仮説

- (1) 話し合いをするにあたり、聞き方の視点を示し、互いにかかわり合いながら聞き合う学習を行うことで、他者の意見を受容的に聞き、自分の意見を見つめ直すことができるであろう。
- (2) 話し合いにおいて、互いの合意点を探る話し合いを4段階に捉え、意図的に支援を行うことで、全体の立場に立って公平に判断し折り合いを付けることができるであろう。

Ⅳ 研究構想図



Ⅴ 研究の内容

1 よりよい人間関係を築く力を育むために

(1) よりよい人間関係を築く力とは

学習指導要領改訂に伴い、特別活動の全体目標において、「よりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」と新しく明示された。これは、様々な集団活動を通して、多様な他者と互いのよさを認め合って協力する態度、人権を尊重する態度など、社会性の基礎を育成してしていくことを示している。

高旗正人は、「人間関係とは人と人とが出会って第一印象で造り上げられる自然発生的

な好き嫌いの相性を第一義的に示す。しかしそれだけではなく、他者との関係を相互扶助的、協力的なものへと意図的に形成することをも意味する。」と述べている。特別活動の特質から考えると、目標に示されている「人間関係」の意味は、後者の方に重きを置いていると捉え、よりよい人間関係を「互いに認め合い、進んでかかわり合う人間関係」と考える。

そして、そのような人間関係を築くためには、他者を理解し、受け入れること、互いによくしていこうとすることが必要であると考えことから、本研究では、「他者を理解し、受容する力」と「よりよく調整する力」を兼ね備えた力を「よりよい人間関係を築く力」と捉える。

(2) よりよい人間関係を築く力と話し合い活動

児童によりよい人間関係を築く力を育む場として、学級活動における話し合い活動が重要な役割を果たしている。

児童は、学級活動の内容「(1)学級や学校の生活づくり」において、まず身近な学級の生活の充実と向上に関する諸問題について学級会と呼ばれる場で話し合い、話し合って決めたことを全員で実践していく「話し合い活動」に取り組んでいく。その話し合いの場で、進んで自分の考えを表現したり、意見の異なる人を説得したり、協同的に議論して他者の思いや願いなどを理解して集団としての合意点を探ることを通して、よりよい人間関係を築きながら生活しようとする資質や態度を育んでいく。

小学校学習指導要領解説 特別活動編では、話し合い活動において、児童によりよい人間関係を構築しながら生活しようとする資質や態度、つまりよりよい人間関係を築く力の育成を目指して、次のような指導を発達の段階に応じて行うことが大切であると示している。

- ア 理由を明確にして、自分の言葉で思いや考えを話すことができるようにする。
- イ だれの話でも、相手の立場に立って真剣に聞くことができるようにする。
- ウ 互いの意見や考えの相違点を理解し合えるようにする。
- エ 互いの思いや気持ちを察し合い、そのよさを理解し合えるようにする。
- オ 異なる意見について、説得したり、互いの意見のよさを生かしたり、折り合いを付けたりして集団としての意見をまとめることができるようにする。
- カ 自分が賛成していないことに決まっても、集団決定したことについて、気持ちよく従い、協力できるようにするとともに、互いの気持ちを推し量った言動ができるようにする。

本研究では、「他者を理解し、受容する力」を育むことをア、イ、ウ、エの指導で行い、話し合いにおいて「他者の意見を受容的に聞く」ことができる児童を目指していく。また、「よりよく調整する力」を育むことをオ、カの指導で行い、話し合いにおいて「公平に判断し折り合いを付ける」ことができる児童を目指していく。

2 他者の意見を受容的に聞くために

(1) 他者の意見を受容的に聞くとは

小学校学習指導要領解説 特別活動編で示されている話し合い活動における発達の段階に即した「聞き方の指導のめやす」を《表1》にまとめた。

中学年において、互いの意見をよく聞く段階か

《表1》聞き方の指導のめやす

低学年	互いの意見をよく聞く
中学年	異なる意見にも耳を傾ける
高学年	多様な意見のよさを積極的に生かそうとする

ら異なる意見にも耳を傾ける段階に移るためには、他者の意見を意識して聞こうとするだけでなく、友達の考えを受け止めようとする態度を身に付けることが大切であるとする。

本研究では、「他者の意見を受容的に聞く」ことを他者の意見を受け止めるだけでなく、互いに聞き合うことで意見の根拠や内容を把握したり、自分の考えと比較して、自分の意見を見つめ直すことと捉える。そして、話し合いの事前より支援することで、話し合いの中でそのような聞き方ができるようにし、「他者を理解し、受容する力」を身に付けていく。

(2) 他者の意見を受容的に聞くための具体的な手立て

話し合いの中で児童が他者の意見を受容的に聞くようにするために、次の2つの手立てを取り入れる。それは、「聞き方の視点」と「聞き合う学習」である。そのことによって、話し合うにあたり、児童が受容的な聞き方を具体的に分かり、他者の意見を受け止めて自分の意見を見つめ直そうとする態度を身に付けると考える。

① 聞き方の視点

児童に他者の意見の受容的な聞き方が具体的に分かるように次の4つの視点にまとめる。

視点① 前向きに受け止め、よさを認める

視点② 違っていることを前提に、否定しないで聞く

視点③ 意見の根拠や内容を把握しようと気をつけながら聞く

視点④ 自分の意見と比べて、相違点を理解しようとする



《図1》聞き方の視点

4つの視点を《図1》のようにまとめ、話し合いの事前より**視点①**から段階的に提示することで、まず児童は他者の意見を受け止める聞き方が分かり、話し合いの中で意識して自分と他者の意見を比べようとし、比べることで自他の意見のよさや修正点に気づき、自分の意見を見つめ直すことができるであろう。

② 聞き合う学習

他者の意見を受け止め、自分の意見を見つめ直そうとする態度を身に付けるために、学級活動での話し合い以外の場において互いに聞き合ったり、話し合ってまとめるという学習を行う必要があると考える。本研究では、その学習を「聞き合う学習」と捉え、《表2》のように具体化し、段階的・意図的に取り入れていく。

《表2》 聞き合う学習

段階	ねらい	学習例
1	相手の意見を受け止め、不明なこと、疑問に思う点はそのままにせず、訊ねることができる。	【絵描きゲーム】 一人の児童が何名かの児童にある絵を説明し、同じ絵を描かせる。
2	相手の意見を受け止め、自分と相手の考えを比較しながら聞くことができる。	【友達の考えを聞き取ろう】 二人が組になってある「どっちがいい？」という話題で、聞き手と話し手に別れて話し合う。
3	互いが納得するために、理由や根拠を明らかにしながら話し合うことができる。	【二人で話し合おう】 二人が組になって、ある課題について話し合い、意見をまとめる。

4	多様な意見を理解し、他者を助けたり、協力して互いが納得する意見をまとめることができる。	【グループで話し合おう】 グループである課題について話し合い、意見をまとめる。
---	---	--

3 公平に判断し折り合いを付けるために

(1) 公平に判断し折り合いを付けるとは

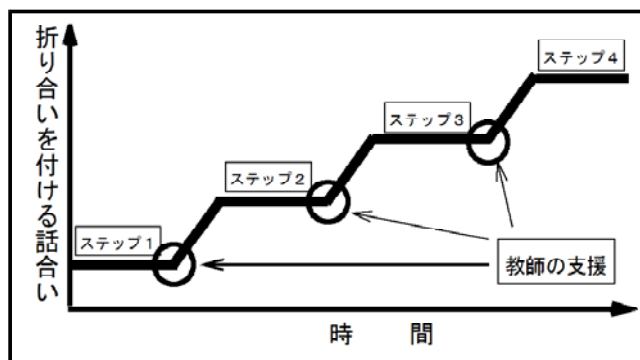
宮川八岐は、「互いの思いや願いを理解することに努め、知恵を出し合って合意点を見いだす集団討議をすることが、学級会の使命である。そうした活動の過程で相互的な信頼関係、つまり人間関係の絆が深まるのである。」と述べている。

話し合いにおいて、満場一致はほとんどない。よって、限られた時間の範囲の中で、何とか「自分もよく、みんなもよいこと」になるようにと公平に判断し、互いに知恵を出し合って合意点を見つけようとする中で、「よりよく調整する力」を育てていくと考える。本研究では、話し合いにおいて、どの考えが数的に優位にあるかで集団決定しようとするのではなく、全体の立場に立ち、互いの思いや願いを生かし合って合意点を見つけていくことを「公平に判断して折り合いを付ける」ことと捉える。

(2) 公平に判断し折り合いを付けるための具体的な手立て

児童が公平に判断し折り合いを付けて集団決定することを目指し、《図2》のように話し合いを4つの段階で捉える。

- ステップ1 互いの意見を知る
- ステップ2 他者との意見の違いを理解する
- ステップ3 他者の視点で自分の意見を修正する
- ステップ4 全体の立場に立って合意点を見つけていく

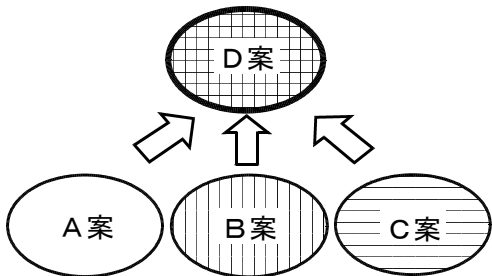
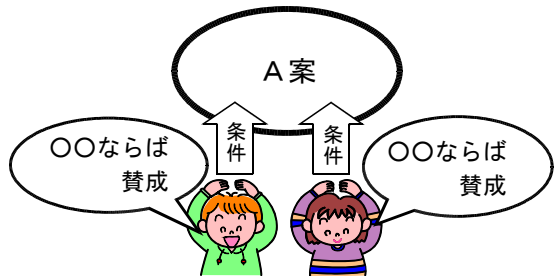


そして、教師が支援を行っていくこと 《図2》 公平に判断して折り合いを付ける話し合いのイメージ
で段階を高めていく。各段階の内容と教師の支援をまとめたものが《表3》である。

《表3》 公平に判断して折り合いを付けるためのステップ

段階	内容	教師の支援
ステップ1	事前に用意してきた意見を他者に伝え、他者の意見を受け止める。	学級会ノート事前に配布し、自分の意見とその理由も一緒に、他者にも伝えるように書かせる。
ステップ2	自分と他者とでは考えの違いがあることを理解し、納得できない他者の意見をどうしたらいいか考え、発表する。	納得できない他者の意見のどこが納得できないのか、どうすれば納得できるかを整理させる。(助言、学級会ノート)
ステップ3	相手の立場に立って自分の意見を見つめ直し、修正した自分の意見を表出する。	相手が納得できない点はどこか考え、納得できるような自分の意見の修正を考えさせる。(助言、学級会ノート)
ステップ4	全体の立場に立って、「自分もよく、みんなもよいこと」と思えることを、折り合いを付けて決める。	「全員が決まったことに気持ちよく従って行動できるように」という視点で意見をまとめさせる。(助言)

また、公平に判断して折り合いを付けた集団決定とは、主に次のような案と捉える。

① 折衷案 話し合って複数の意見に絞られた中から1つを選択することができない場合、それらの一部分あるいは全体を合わせて新しい案にまとめるという方法である。互いの意見を尊重していいところを生かそうと建設的に集団決定しようとするよさがある。 しかし、安易に合わせると実践する際に無理が出てくる場合が考えられるので、決定する際にしっかり吟味しなければならない。 	② 条件付き賛成案 ほとんどの児童が1つの案に賛成して、何人かが反対をしている場合、その反対理由をよく聞いて、「〇〇ならば賛成できますか」など、条件をつけて合意形成を図っていく方法である。互いの気持ちを理解し、くみ取ること、だれもが納得できるような集団決定となるよさがある。 そのためには、条件をつける際には、一部の児童でのやり取りだけで決めるのではなく、全体で十分に吟味しなければならない。 
---	---

VI 授業実践（第4学年）

1 議題名 えがおカルタ作り大作戦

2 目標

学級カルタを作成する計画を立てる話し合いを通して、他者の意見を受け入れ、自分の意見を見つめ直し、全体の立場に立って集団決定する大切さを味わい、互いに認め合い、進んでかかわり合おうとする態度を育む。

3 議題選定の理由

本学級には、4月当初より自己主張の強い児童が数名おり、学年の初めの頃から周りのことを考えない言動が見られた。そのため、学級集団のまとまりをうまく築くことが難しかった。そこで、5月に学級スローガンを「明るいえがおの4年3組」と設定し、みんな仲良く、楽しい学級を作ることを目指し、学級会で話し合い、集会活動も行ってきた。

そうした学級活動の時間を続けていく中で、児童同士の距離が近くなり、休み時間などでも進んでかかわれるようになってきた。学級スローガンを念頭に入れて考える児童も出てきている。しかし、まだ自己中心的な行動をとりがちな児童もあり、仲良く生活することの協力することの大切についてさらに理解を深めさせる必要がある。

話し合い活動においては、これまで「えがおスポーツ集会をしよう」「えがおものづくりをしよう」等の議題について話し合ってきた。児童は、賛成や反対の意見は言えるが、まだ自分の考えに固執しがちである。そこで、友達の考えを受け入れることの大切さや、自分のことだけでなくみんなのことも考えて意見を言うことを指導していきたい。

2学期後半になって、学級活動で取り組んでみたいことを呼びかけたところ、カルタ大会をやりたいという意見が多数あがったことを受け、計画委員会で話し合い、「えがおカルタ

大会」を実践することとなった。そこで、カルタ大会を盛り上げるためにはどのような工夫が必要かアンケートを取り、その中から学級オリジナルの「えがおカルタ」を作ることを提案し、実践することになった。

学級オリジナルのカルタを作成する活動は、学級の全員が主役になり、互いに支え合いながら取り組む活動である。その計画を立てる話し合いをすることで、互いに認め合い、進んでかわり合おうとするよりよい人間関係を築く力を育むことを期待できると考え、本議題を選定した。

4 本時までの取り組み

実施月日	内 容	時 間	対 象
1月 5日(木)	議題の収集	帰りの会	学級全員
1月 6日(金)	計画委員会①(議題の整理・役割分担)	放課後	計画委員、教師
1月10日(火)	聞き合う学習 1【絵描きゲーム】	朝の会	学級全員
1月10日(火)	計画委員会②(話し合いの柱、めあての設定)	放課後	計画委員、教師
1月11日(水)	聞き合う学習 2【友達の考えを聞き取ろう】	学級活動	学級全員
1月12日(木)	計画委員会③(意見の集約、意見を短冊にまとめる)	放課後	計画委員、教師
1月13日(金)	聞き合う学習 3【二人で話し合おう】	朝の会	学級全員
1月13日(金)	学級会ノートの記入	帰りの会	学級全員
1月16日(月)	聞き合う学習 4【グループで話し合おう】	朝の会	学級全員
1月16日(月)	計画委員会④(話し合いの流れ)	放課後	計画委員、教師
1月18日(水)	本時「えがおカルタ作り大作戦」	学級活動	学級全員

5 本時の展開

(1) ねらい

- 友達の意見をよく聞き、自分の意見を見つめ直しながら話し合うことができる。
- 全体の立場に立った集団決定ができる。

(2) 授業仮説

話し合いにおいて、他者の意見を聞いて自分の意見を学級会ノートに整理することによって、他者の視点に立って自分の意見を見つめ直し、折り合いを付けて集団決定することができるであろう。

(3) 展開

議 題	えがおカルタ作り大作戦		
提案理由	オリジナルのカルタを作って、もっと仲良くなる楽しいカルタ大会にしたいから		
本時のめあて	○友達の意見をよく聞いて、進んで意見を出し合う話し合いにしよう ○自分もよくみんなもよいことになるように意見をまとめよう		
	話し合いの順序・予想される児童の反応	教師の支援・援助	評価(☆)児童への手立て
導 入 分	1 はじめのあいさつ	教師の話 ・カルタ作りの活動内容などを提示し、興味・関心を持たせる。 ・聞き方の視点を示し、意識させて話し合わせる。	
	2 役割の紹介		
	3 議題の確認		
	4 提案理由の説明		
	5 めあての確認		
	6 教師の話	話し合いの柱 どのようなカルタを作るか	
	7 話し合いの柱の確認		

展 開	8 話し合い (1) 比べ合う ステップ1 互いの意見を知る ステップ2 他者との意見の違いを理解する ステップ3 他者の視点で自分の意見を修正する (2) 決める ステップ4 よりよい合意点を見つけていく ・ 選択案 ・ 折衷案 ・ 条件付き賛成案 9 決まったことの発表	仮説検証① 他者の意見を受容的に聞き、自分の意見を見つめ直す 友達の意見を聞いて、どこが納得できないのか、どうすれば納得できるのかを考えるよう助言し、発表させる 友達の意見との違いを踏まえて、どう自分の意見を修正すればいいか考えるよう助言し、学級会ノートに書かせる 「自分もよく、みんなもよいこと」になって全員が気持ちよく活動できるという視点で決めていくよう助言する 仮説検証② 公平に判断して折り合いを付ける	 ☆ 友達の意見を聞いて、修正した自分の意見を表出している。 【学級会ノート・発表】 自分の意見に反対している理由に着目させ、納得してもらえるためにはどうしたらいいか考えさせる。 ☆ 全体の立場に立って意見をまとめようとしている。 【行動観察・発表】 ネームプレートの分布に着目させ、どのようにまとめたら自分もよく、みんなもよいか考えさせる。
	まとめ 10 話し合いの振り返り ・ 学級会ノートに自己の振り返りを書く。 11 教師の話 12 終わりの言葉	・ 決定したことだけでなく、話し合いの中で折り合いを付けることができたか、決まったことが自分もよく、みんなもよいこととなったか振り返る。 ・ 司会団を賞賛する。 ・ 実践に向けて意欲を持たせる。	

VII 結果と考察

1 作業仮説1の検証

話し合いをするにあたり、聞き方の視点を示し、互いにかかわり合いながら聞き合う学習を行うことで、他者の意見を受容的に聞き、自分の意見を見つめ直すことができるであろう。

(1) 結果

本研究では、話し合いの事前の活動として、聞き方の視点を示し、朝の会や学級活動の時間に互いにかかわり合いながら聞き合う学習を4回行った。

第1時では、グループの中の一人が与えられた図を説明する役になり、他の児童が質問をして聞き出すことで、相手の意見を受け止めたときに、不明なこと、疑問に思うことはそのままにせず、尋ねることの大切さを学んだ。第2時では、二人組を作り、「どっちがいいか」という話題で、聞き手と話し手に分かれて話し合い、相手の意見を受け止め、自分の意見と比較して考えてみることに取り組んだ。第3時では、二人組になり、ある課題

について意見をまとめる活動に取り組み、相手の意見を受け止め、自分の意見を見つめ直しながら合意点を探っていった。第4時では、グループで一つの課題について意見をまとめる活動に取り組み、より多様な意見を受け止め、互いに自分の意見を見つめ直し、修正しながら合意点を探る話し合いをした。

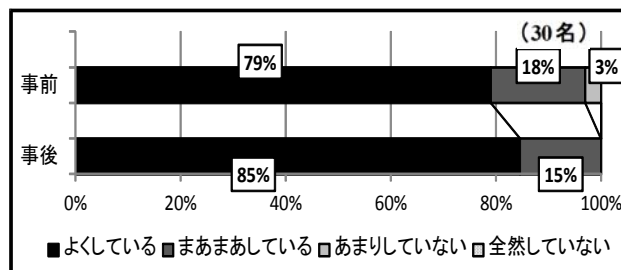
各時間の学習における児童の感想で、相手の意見を認め、受け止めようとする感想を書いている児童が第1時では3人、第2時では9人、第3時では10人、第4時では15人おり、学習を進めていくにつれて、増えていることが分かった。《表4》は、それを抽出したものである。第4時では、進んでちがう意見を取り入れようとしている様子も分かる感想も見られた。

《表4》聞き合う学習の主な感想

第1時	友達の説明を聞いて絵をかくのは楽しいなと思いました。(児童A)
第2時	意見がちがったけど、ちがう意見もいいなあと思いました。(児童B)
第3時	意見が全然ちがうから、相手には相手の意見があるんだなと思った。(児童C)
第4時	やっぱりみんなちがう意見を持っているということが分かりました。(児童D)
第4時	意見がちがうTさんの意見も自分の意見も一緒にした方がいいと思いました。(児童E)

《図3》《表5》《図4》は、取り組み前後の児童の意識の変容を見たアンケートの結果である。

《図3》では、「学級会の中で、友達のどんな意見でも聞いていますか」の質問に、「よくしている」と答えた児童が取り組み前には79%だったのが、取り組み後には85%なり、6%増加した。「よく聞いている」主な理由に、「自分の意見と比べたいから」「自分の意見が変わるかもしれないから」などが挙げられている。



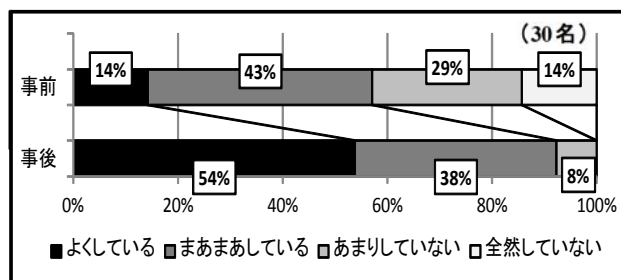
《図3》友達のどんな意見でも聞いているか

《表5》の「学級会の中で友達の意見をどのようなことを考えて聞いているか」という質問への主な回答をみると、「自分の意見と比べてみよう」と考えている児童が、2人から10人に増え、無答が9人から1人に減った。また、☆印の回答は「聞き方の視点」で示した聞き方である。

《図4》では、「学級会の中で、友達の意見を聞いて、自分の考えを比べていますか」の質問に、「よくしている」「まあまあしている」と答えた児童が取り組み前には合わせて57%だったのが、取り組み後には92%になり、35%増加した。

《表5》友だちの意見をどのようなことを考えて聞いているか

	主な回答	人数
事前	☆自分の意見と比べてみよう	2人
	☆どんな事を考えているか	2人
	自分の意見と同じかどうか	3人
	無答	9人
事後	☆自分の意見と比べてみよう	10人
	☆どんな事を考えているか	3人
	☆友だちの意見はいろいろあるな	1人
	☆自分の意見とちがうけど、ちがって当たり前だな	1人
	無答	1人



《図4》友達の意見と自分の意見を比べているか

(2) 考察

聞き合う学習の感想や《表4》より、聞き方の視点に示した「クラスにはいろんな意見があるな」「自分の意見とちがって当たり前」という聞き方を身に付けていったと考えられる。その結果、話し合いにおいても具体的な目的を持って「言いたいことは何かな」と他者の意見を聞こうとしている児童が増えたと思われる。そして、他者の意見を受け止める

だけでなく、自ら進んで比べている児童が増えたことより、聞き方の視点に示した「自分の意見と比べてみる」という聞き方が身に付いてきたと考えられる。また、取り組み後には聞き方の視点で示した全ての聞き方が挙げられていることから、話し合いにあたり聞き方の視点を示すことが有効であったと考える。

また、自分と他者の意見を比べている理由として、「比べて友達の意見がいいなと思ったら、自分の意見にもしたいから」「比べて自分の意見をもっとよくしたいから」などを挙げていることから、自分の意見を見つめ直そうとしつつあるのではないかと捉える。

以上のことより、聞き方の視点を示し、聞き合う学習に取り組むことで、児童は他者の意見を受容的に聞き、自分の意見を見直そうとすることができるようになると考える。

2 作業仮説2の検証

話し合いにおいて、互いの合意点を探る話し合いを4段階に捉え、意図的に支援を行うことで、全体の立場に立って公平に判断し折り合いを付けることができるであろう。

(1) 結果

話し合いでは、**ステップ1**としてあらかじめ4つに絞られた内容について用意していた自分の意見を発表させた。その次に、**ステップ2**として他の内容への反対意見や質問を発表させ、納得できない他者の意見をどうしたらいいのか学級会ノートに整理させ、発表させた。そして、**ステップ3**として他者の納得できない立場に立って自分の意見を見つめ直し、発表させ、**ステップ4**として「自分もよく、みんなもよいこと」となるような合意点を見つけていった。

《図5》は、抽出児童の学級会ノートの自分の意見を書く部分である。「意見を聞いて」の欄にサッカーカルタについて納得できないことを書き、「思い出カルタにサッカーのことをかいてもよい」と他者を納得させようとする意見を書いている。その他の児童は、納得できないことについてしか書いていなかったが、周りと相談している様子が見られた。

話し合うこと	自分の意見（理由もしっかり書こう！）
① じょうなカルタを作るか	① 4年生の思い出カルタ りゆうは、4年生の思い出が思い出 りゆうでみんな使くなるから
② やくちり分たんにい	② 思い出を作る人（を）を人デザインする りゆうをかんがえてきめたら、早く 作りおわるから
	サッカーカルタに反対します。 りゆうは、サッカーのこを、あまり 矢張りない人などがいるから（木）ないから
	4年生の思い出カルタは男子でも むきょうようにサッカーのこをい ておき

《図5》学級会ノートへの記入

《表6》は、**ステップ3**で話し合いの中の他者の納得できない立場に立って自分の意見を見つめ直し、発表する場面の記録である。「サッカーカルタは女子が楽しめない」という納得できない意見に対して、サッカ

《表6》納得できないことをどうしたらいいのか発表する場面

A男	サッカーカルタじゃ女子も楽しめないと思うから、スポーツカルタにした方がいいと思います。
B男	A男さんの意見に賛成です。理由は、体育の時間でも男女とも楽しくスポーツをやっているからです。
A子	賛成です。好きなスポーツのことだったら、女子も男子も楽しめるからです。

ーカルタに賛成していたA男が、「女子も楽しめるように」と自分の意見を修正した提案があり、全体から了承を得て「サッカーカルタ」は「スポーツカルタ」になった。

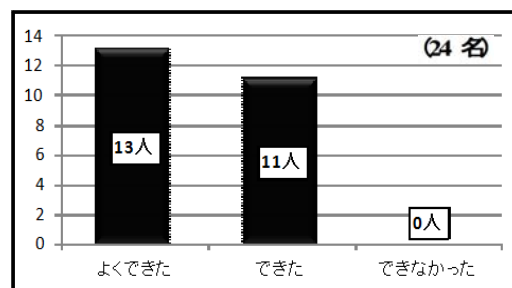
《表7》は、**ステップ4**で話し合いの中の「自分もよく、みんなもよいこと」となるような合意点を見つけていく場面の記録では、3つに意見が分散している状況から、C男より「3つの意見を合わせた方がいい」という折衷案が提案され、全体了承を得て決定した。

《図6》は、児童が話し合い後に行った「学級全体のことを考えて決めようとしたか」の項目についての振り返りの結果である。全員が「決めようとした」と振り返っており、自

分のことだけではなく、「自分もよく、みんなもよいこと」になるようにと全体のことを考えて決めようとしていたことが伺える。

《表7》集団決定する場面

C男	3つの意見を合わせた方がいいと思います。全部合わせてもオリジナルになるのでいいと思います。
司会	今の意見についてどう思いますか。
D男	全部合わせたら4年3組だけのオリジナルになるからいいと思います。
B子	私も賛成します。なぜなら、4年3組のみんながやりたいことになっているのでみんなが楽しめるカルタになると思うからです。
司会	では、3つの意見を合わせたカルタにしてもいいですか。
全員	はい。



《図6》全体のことを考えて決めようとしたか

(2) 考察

ステップ1では、話し合いの事前より用意していた自分の意見を意欲的に述べ合い、質問をする姿が見られ、児童は互いの意見を理由も一緒に受け止め、「互いの意見を知るができた」と考える。

ステップ2では、学級会ノートに「意見を聞いて」という欄を設けることで、児童は他者への納得できないことを整理することができ、それを発表し合うことで、「他者との意見の違いを理解する」ことができたと考えられる。

ステップ3では、他者の納得いかないことを受け入れ、他者も納得できるような自分の意見を見つめ直して修正している様子が伺えることから、相手の立場に立って自分の意見を見つめ直し、修正して提案しているといえる。また、納得していなかった児童も、修正した意見に納得していることより、「他者の視点で自分の意見を見つめ直す」ことは、「自分もよく、みんなもよいこと」となるような合意点を探る話し合いに有効だと言える。

ステップ4では、まずC男より「全部合わせてもオリジナルになる」という安易な理由で全ての内容を一つのカルタにまとめる「折衷案」が提案されたが、続けて「みんながやりたいことになっているのでみんなが楽しめることになる」という理由も付け加えられたことで、「自分もよく、みんなもよいこと」となるような合意点と捉えていると考えられる。そして、《図6》よりも、「よりよい合意点を見つけていく」ために公平に判断し折り合いを付けて決めようとしていたと言えるであろう。

以上のことより、児童が全体の立場に立って「自分もよく、みんなもよいこと」となるように公平に判断し折り合いを付けるために、話し合いを4段階に捉え、段階ごとの話し合いを充実させる支援を行うことは有効であったと考えられる。

3 事後の活動

(1) 結果

話し合いの後日、朝の会を利用して、カルタ作りの役割分担について話し合い、決定したことをもとにカルタ作りを行った。まず、8つのグループで割り振り、更にグループ内で相談し、分担してカルタを作成した。

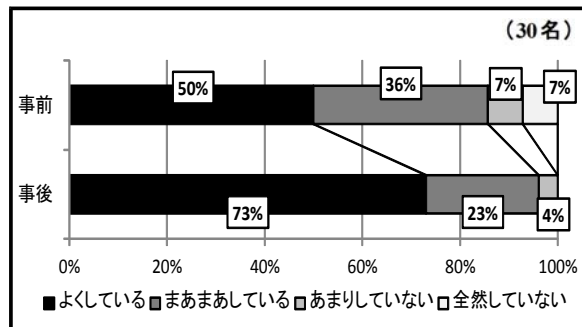


カルタ作りの様子

《図7》は、「学級会で決まったことに気持ちよく取り組んでいるか」という質問に対する取り組み前後の児童の意識の変容の結果である。「とてもしている」と答えた児童が取り組み前は71%だったのが、取り組み後は96%となり、25%増加している。また、「ま

あまあしている」と合わせると、取り組み後は100%になった。

《表8》は、カルタ作りに関する児童の感想をまとめたものである。全員が、「楽しかった」「うれしかった」「また作りたい」など、肯定的な感想であった。○印の感想からは、友達やグループと進んでかかわりながら作成したことに喜びを感じていることがわかる。また、□印の感想からは、オリジナルのカルタを作成したことについての肯定的な感想である。自分が作りたいと思ったカルタ以後のカルタを受け入れている様子が伺える。



《図7》決まったことに気持ちよく取り組んでいるか

《表8》カルタ作りに関する児童の感想

- グループで協力して作れたのでうれしかった
- みんなで教え合って、とてもいいカルタができたのでうれしい
- 友達からアドバイスをもらえたり、自分も手伝ってうれしかった
- グループの仲が良くなったのでうれしい
- オリジナルのカルタを作れたのでうれしかった
- 自分が好きなスポーツのカルタを作れてうれしかった
- ことわざを調べたり、思い出を思い出して作るのがとても楽しかった
- スポーツや思い出やことわざなどいろんなカルタを作れて楽しかった

(2) 考察

話し合いで決まったことに児童全員が気持ちよく取り組めるようになったことから、児童が話し合いの中で公平に判断して折り合いを付けたと言えるであろう。また、児童は他者と進んでかかわることに喜びを感じ、他者を認めつつあることから、互いによくしようとする「よりよく調整する力」と他者を理解し、受け入れる「他者を理解し、受容する力」が育まれつつあると思われる。

よって、公平に判断して折り合いを付けた集団決定を目指して話し合うことは、よりよい人間関係を築く力を育むことに有効であると考ええる。

VIII 研究の成果と課題

1 成果

- (1) これまで自分の意見に固執していた児童が、他者の立場に立って自分の意見を見つめ直そうとする姿が見られた。
- (2) 話し合いの中で4つの段階を踏んで合意点を見つけさせる手立てを取り入れたことで、折り合いをつけて集団決定しようとする意識が高まり、事後の活動への意欲につながった。

2 課題

- (1) 話し合いの中で修正した自分の意見の表出が苦手な児童への支援。
- (2) 折り合いを付けていくための話し合いの段階を踏まえていくより効果的な支援。

《主な参考文献》

- 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省 東洋館出版 2008
- 『小学校学習指導要領の解説と展開 特別活動編』児島邦宏・宮川八岐編 教育出版 2008
- 『よりよい人間関係を築く特別活動』杉田洋著 図書文化社 2009
- 『学級会で子どもを育てる』宮川八岐 文溪堂 2011
- 『人間関係をつくる力を育てる』高旗正人・新潟県個集研編著 黎明書房 2000
- 『対話能力を育む話すこと・聞くことの学習』村松賢一著 明治図書 2001